

草津市歴史文化基本構想策定に向けた第3回ワークショップ 開催報告

開催概要

◆ 対象テーマ

テーマ1 「真金吹く炎の文化」

【参考】草津市の歴史文化のテーマ
テーマ1 「真金吹く炎の文化」
テーマ2 「受け継がれる中世のころ」
テーマ3 「人と物の行き交う草津」

◆ 日時

平成30年10月13日（土）
13時～16時

◆ 内容（場所）

13:00～13:35 趣旨説明（立命館大学コアステーション）
13:35～13:50 展示見学（立命館大学コアステーション）
14:00～14:20 現地見学
（立命館大学木瓜原遺跡地下遺構保存施設）
14:20～15:10 現地見学
（史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡）
15:30～16:30 グループワーク（玉川まちづくりセンター）

◆ 参加者（グループワーク）

4名

◆ 開催結果の概要

最初に、草津市で策定に向けた取り組みを進めている歴史文化基本構想の概要や草津市における策定の考え方、検討中の草津市の3つの歴史文化のテーマについて説明しました。その上で、第3回のワークショップで対象とするテーマ「真金吹く炎の文化」の中で今回見学を行う歴史資産や関連する歴史資産の概要を説明しました。

現地見学では、①立命館大学コアステーション（展示）、②校内木瓜原遺跡地下遺構保存施設、③史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡を巡り、各所で職員により解説を行いました。

立命館大学コアステーションでは、7世紀末から8世紀初頭に製鉄・製陶や梵鐘の鋳造を行っていた木瓜原遺跡の調査に関する展示や調査で出土した遺物、梵鐘鋳造遺構、そして須恵器窯の灰原の断面剥ぎ取り遺構等を見学しました。木瓜原遺跡地下遺構保存施設では現地保存された製鉄炉遺構を見学し、史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡では、職員の解説から往時の同地での製鉄風景を思い浮かべました。

現地見学後のグループワークでは、歴史文化の3つのテーマのうち本日のテーマ「真金吹く炎の文化」について、次の2つを論点として、参加者による意見交換を行いました。

- (1) テーマと見学した歴史資産の感想
- (2) 見学した歴史資産等をどのように保存・活用していけばよいと考えられるか

(1)については、かつて瀬田丘陵に存在した古代の広大な生産遺跡が律令国家建設に関わったことや、多くの人が働いていたこと、陸・湖の道でつながった立地の特性が発揮されていたことなどが、職員によって詳しく紹介されたことで初めてイメージできたという感想を聞くことができました。

(2)については、地域の方に野路小野山遺跡をより身近に感じてもらうための整備や、大学内に保存されている木瓜原遺跡の一層の活用への期待、子どもや専門家ではない市民にもわかりやすく伝える説明板や音声ガイド、パンフレットづくり、体験学習の実施などの幅広い意見が提案されました。



趣旨説明



歴史資産（木瓜原遺跡）の展示解説



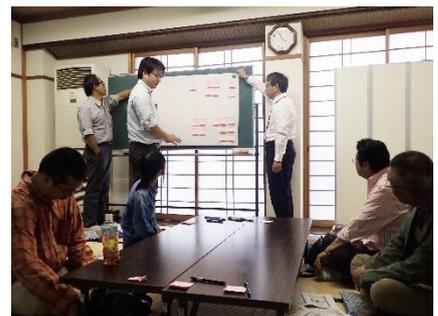
歴史資産（木瓜原遺跡地下遺構保存施設）入り口



歴史資産の解説（木瓜原遺跡）



歴史資産の解説（史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡）



グループワークによる意見集約のまとめ

(1) テーマ「真金吹く炎の文化」と見学した文化財の感想

見学した文化財の感想

各時代にタイムスリップしたような学びをしてから遺跡を見ると、より身近になるかもしれないと感じた

遺跡の現状と説明板から、その場所がかつて製鉄遺跡であったことを読み取るのは難しい

専門家の説明を聞いて初めてイメージできることがたくさんあり、ガイドの育成や説明板の整備が必要と感じた

遺跡をどのように見るかというのはとても難しく、子どもたちにもわかる伝え方は、より難しい

ヴィジュアル資料を見て、時代の背景を聞いてようやく、遺跡の立地が意味することや、どんな光景が広がっていたのかを想像できた

復元されて地上で見えるものがあればもっとわかりやすく価値が伝わりそう

京滋バイパスの下に遺跡があることをはじめて知った

(2) 見学した文化財等の保存・活用のあり方について

文化財の解説・案内・情報発信

案内板・解説サイン

専門家ではない市民にも理解できる言葉で遺跡の説明をするべき

木瓜原遺跡の解説のためにスピーカーなどを整備検討すべき

史跡の看板などの整備の充実が必要

木瓜原遺跡に人感センサーで説明アナウンスを流す

遺跡とあわせて立体映像を使い、物づくりの場であることが伝わる紹介をする

古代の製鉄作業風景を AR 等で見られるとわかりやすい

教育普及

鉄づくりの体験学習を行う

子どもにもわかりやすい遺跡のパフレットを作ってはどうか

遺跡を学べる機会が年に何回かほしい

大学との連携

立命館大学へ訪れやすい仕組みが必要

立命館大学との連携として、木瓜原遺跡を全学生に見学させて PR する

インフラ・施設

交通アクセス

野路小野山製鉄遺跡には駐車場がなく、見学するためには整備が必要である

今後の整備

地域の方に野路小野山遺製鉄跡を身近に感じてもらうため、整備をして公園にしてもらえるとよいかもしれない

伝える仕組みづくり

遺跡に関わる交通網（道路、湖上交通、人の動線）などを紹介する

生産遺跡群を一体として捉えられる周知の方法を検討する

木瓜原遺跡と野路小野山製鉄遺跡を繋げた紹介をして、興味を喚起する

木瓜原遺跡と野路小野山製鉄遺跡をあわせて見学したくなるような整備の方法を検討する